

令和2年度 第2回大阪府立桃谷高等学校学校運営協議会 記録

新型コロナウイルス感染症拡大対策のため、令和2年度第2回会議の開催を取りやめ、書面による意見聴取の形式とした。12月8日に各委員に会議資料を送付し、12月23日までに意見等を郵送いただいた。以下、いただいた意見等を取りまとめ議事録とした。議事録については各委員に送付し確認していただいた（12月8日送付）。

1 会議日 令和2年12月23日（金） 意見聴取の返送期日

2 場所 会議開催によらず郵送による意見聴取とした

3 委員名

梅田和子 委員（近畿大学特任教授）、 大西啓嗣 委員（大阪市立天王寺中学校長）、
山口照美 委員（生野区長）、 加藤曜子 委員（流通科学教授）、
篠崎静夫 委員（同窓会会長）、 仲村英理 委員（PTA 副会長）

4 議事内容（意見聴取の主な内容）

- (1) 「令和2年度学校経営計画」取り組みの進捗状況について
- (2) 全体をとおして
- (3) 令和3年度使用教科用図書選定理由書について

5 資料及び意見等について

(1) 「令和2年度学校経営計画」取り組みの進捗状況について

① 多部制単位制Ⅰ・Ⅱ部

梅田委員 ・目標としていた指標評価に達しないものがありますが、コロナ禍の状況では、致し方ないことと思います。その部分以外では、概ね、良く取り組んでおられると思います。

・各教科で授業アンケートの分析をされていますが、どのような課題がわかったのでしょうか。その課題の解決に向けて、どのような取り組みを考えられているのでしょうか。

大西委員 ・今般の状況を踏まえ、生徒への個別の支援の在り方が、極めて重要になってきていると感じます。オンラインの活用を含めて、様々な支援体制のさらなる充実をお願いします。

篠崎委員 ・コロナ対策として、保護者との電話による懇親対応・訪問自粛も仕方ないと思います。4・5月2か月の臨時休業、分散登校、大変だったと思います。その中で文化祭はコロナ禍の中で開催ご苦労様でした。

・Ⅰ・Ⅱ部卒業生の年齢は10代の人も多いと思います。進路について就職も含

めて、大学及び専門学校に進学する人が少ない。卒業生の桃高卒業後の進路が気になります。

加藤委員 ・不登校においては、出身校との情報交換をされる目標を提出されておりますが、本学入学時に生徒本人の意見を聞きとるチャンスがあれば、より解明されると思われました。

・登校されない場合には、要対協ケースであれば、福祉からの情報も活用され、共に係わることは可能だと期待したいです。

仲村委員 ・閉部まであと3年と短い期間の中、コロナ禍で先生方は予定をしている教育活動も予定どおりに進んでいないと思いますし、生徒の方は精神面が不安定になっている人もいると思います。1人でも多くの生徒を卒業に近づけるように根気よく取り組まれていることに感謝します。

山口委員 ・コロナ禍の中でも、授業アンケートの肯定的な回答率は微増しており、教職員の皆さんの努力を感じます。

・キャリア教育（ももだにプロジェクト）については、今後、経済状況がより厳しくなる中で、時には行政の支援も受けながらも人生を切り開いていく基本的なお金や生活に必要な知識を身につける項目があってもいいと考えます（全学部に言えます）。

② 定時制の課程（夜間）／多部制単位制Ⅲ部

梅田委員 ・パワーポイントの説明資料の写真などから、生徒の状況が伝わってきました。
・経験年数2～5年の先生方が、主体的に「オンライン授業」を検討され、部全体で研修に取り組まれていることは、素晴らしいことだと思います。

・業務改善につなげるアンケートは良い取り組みと思います。どのような意見があったのでしょうか？アンケートを意見改善につなげてほしいと思います。

大西委員 ・多岐にわたる生徒の現状やニーズを踏まえ、様々な工夫を凝らした教育活動を進めている。

・「フレッシュマンセミナー」をはじめとする教員の指導力向上に向けた取組をより一層推進して頂きたい。

篠崎委員 ・幅広い年齢層の中で、スクーリング等授業を進めていくのは大変だと思う。ホームルームはあるのかな。年齢が違う中でどのような事に皆さんの興味があるのかと思う。

・修学旅行の事が詳しく書かれていたのですが、10代8人、高齢者3人（60～70才）は思い出になったことと思う。2泊3日費用もかかったと思います。補助（費用も含めて）ないのですか。

加藤委員 ・「本校では入学すればすべて1年次生。全日制高で3年在籍し、単位が少し足りずに卒業できずに本転入学で1年次生」→これについての改善点はないのでしょうか？

・外国人籍については、是非とも、学歴キャリアをつけていただきたいと思いますが、どのような困難さを教育提供者側が持たれているのかも知りたいです。

仲村委員 ・学校行事・部活動等力を入れて取り組まれていて個を生かしてくれるのは良いと思います。又、修学旅行に行けている（ドタキャンをしない）のはおどろきです。社会に出て自信をもっていけるような取り組みは、この先とても良い経験になると思います。

山口委員 ・外国ルーツの生徒が多いということで、多文化共生に対する取り組みが行われているのはとてもよいと感じます。概ね、アンケートの回答は肯定的で、課題を抱える生徒に対しても丁寧に対応しているところや、行事や授業を工夫して実施しようとする教職員のみなさんの努力が伝わっているものととらえています。

③ 通信制の課程

梅田委員 ・生活体験発表で全国大会出場、おめでとうございます。
・レポートの代筆問題への対策はどのようにされたのでしょうか。
・資料2に関して、「運営委員会の強化」とは、どのような事に取り組んでおられるのでしょうか。

・「研究スクーリングプロジェクトチーム」の主導で実施した研修はとても良い取り組みだと思います。教員向けテキストもぜひ完成させてほしいと思います。

大西委員 ・中学校においても学習評価を通じた指導の見直しが大変重要になっている。評価活動を通じた指導方法の研究をさらに進めていただきたい。

篠崎委員 ・通信制の学生は本来、高校に行けなかった人、主婦、仕事を持っている、毎日学校に行くことができない人を対象に、自学自習で卒業迄、ある意味大変な道のりです。私も通信制卒業ですが、レポートの提出、スクーリングの出席、年間スクーリングの出席日数を、各自が工夫しながら4年間（今は3年）で卒業しました。39才卒業式の感激は今も時々思い出されます。

加藤委員 ・レポートですが、生徒の先生の交流はどのような工夫がなされているのでしょうか？

・心臓に病気をかかえながら勉学に打ち込む生徒さんが代表となられたニュースは嬉しい限りです。社会とつながり、学校ともつながることは、とても重要な事です。コロナ禍での生徒さんは、どのように暮らし、学校とつながれたのか、又、知りたいです。

仲村委員 ・通信の生徒さんの大阪府代表は桃谷高校全体で応援しても良いと思いました。
・私学の通信制に負けない学校があるって事をもっと知ってもらいたいです。

山口委員 ・教職員の自己診断による組織の課題をしっかりと認識し、解決しようとする姿勢を評価します。教職員の間関係においてはポジティブな回答が増えていることもあり、コロナ禍を乗り越えようとする中でより組織力が向上することを期待しています。通信制の強みは、現在の状況の中でこそ活きると思います・「研究スクーリングプロジェクトチーム」の取り組みも進んでいるとのことで、一層、魅力的な学校になると思われます。

(2) 全体をとおして

梅田委員 ・特にありません。

大西委員 ・感染症対策を講じながらの学びの保障に向けたお取組に感謝申し上げます。

篠崎委員 ・協議会はコロナの影響で、第1回、第2回と中止となりました。第3回は開催できたらいいと思いますけど・・・。

加藤委員 ・15才～78才までを対象に「教育の機会」を提供していただき、感心いたしております。「楽しい学びの場づくり」と「楽しい生活」の連携としても、福祉との共同が必要であると感じております。

仲村委員 ・今年は政府からの指示で先生方も大変苦勞されたと思いますが本当に感謝します。

山口委員 ・コロナ禍であることを言い訳にせず、積極的な取り組みを展開していただいていることに感謝します。特に、制度の網からこぼれがちな年齢層の若者をかかえている学校ですので、SSW や SC と連携した生徒のケアについては、今後も引き続きよろしく申し上げます。

(3) 令和3年度教科書採択

委員に令和3年度教科書採択の一覧を送付した。

なお、教科書採択に関する意見等はなし。

6 各委員からいただいた質問に対する回答

(多部制単位制Ⅰ・Ⅱ部への質問)

Q1 各教科で授業アンケートの分析をされていますが、どのような課題がわかったでしょうか。その課題の解決に向けて、どのような取り組みを考えられているのでしょうか。

A1

教科により課題は様々ですが、各教科共通の課題は、予復習の必要性、個々の習熟度の違い、理解度の差異などです。解決に向けては、前回内容の振り返りや復習テストの実施、意欲を引き出す創意工夫、グループラーニング、ICTの活用などが挙がっています。

Q2 Ⅰ・Ⅱ部卒業生の年齢は10代の人も多いと思います。進路について就職も含めて、大学及び専門学校に進学する人が少ない。卒業生の桃高卒業後の進路が気になります。

A2

本年度の進路結果については、今回送付しました「自己評価」に記載しました。ご覧ください。卒業してから後の動向については残念ながら把握できていません。

Q3 不登校においては、出身校との情報交換をされる目標を提出されておりますが、本学入学時に生徒本人の意見を聞きとるチャンスがあれば、より解明されると思いました。

A3

入学時に生徒と保護者に記入してもらったカードがあり重要な情報源です。入学後も指導に活用しています。

(多部制単位制Ⅲ部・夜間定時制への質問)

Q1 業務改善につなげるアンケートは良い取り組みだと思います。どのような意見があったのでしょうか？

A1

フレッシュマンセミナーで授業づくりについての研修を行った際に「教材研究や授業準備の時間が十分に取れない」「授業をよくするために、もっと時間をかけたい」という意見が出されました。それを受け、負担になっている業務とその改善策についてアンケートを実施しました。

多かったのは会議の在り方と所要時間についての意見です。「集まって話をする」というのは学校文化だと思います。また、本校には様々な背景のある生徒が多く、その情報共有等で会議時間が長くなっている状況があります。必要な時間ですが、内容を変えずにできるだけ短時間でできる方法を検討しています。ICTの活用により、集まらずに情報共有する方法等の提案もありました。

まずは会議全体の枠組みを変えるために、「会議は1時間以内に終える」「それ以上必要な場合は事前に終了予定時刻を構成員に伝える」とこととしました。

職員会議については、今年度の学校経営計画で「1時間以内で終えるようにする」としましたが、ほぼ毎回1時間以内に終えることができています。

Q2 ホームルームはあるのか

A2

各年次2クラスずつのホームルームがあり、担任がいます。水曜日の1、2限がホームルームと総合的な学習（探究）の時間になっています。1時間ずつ行うときもあれば、週によっては2時間連続のホームルームや20分のホームルームと残りの時間が総合的な学習（探究）の時間ということもあります。平均すれば、週に1時間程度（月4時間程度）のホームルームの時間があります。

Q3 修学旅行の補助（費用も含めて）ないのですか

A3

修学旅行費用は積み立てで、約8万円を徴収しています。それに対する学校や府教育庁からの補助はありません。行先を昨年度までの沖縄から長崎・五島列島方面に変更したことで、これまでより低い予算を組むことができました。あわせて、今年度に限りGoToキャンペーンが

利用できたので、予定よりかなり安く実施できました。また、生徒には地域共通クーポンが渡され、それで食事をしたりお土産を買ったりしていました。

今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で修学旅行が中止になったり、感染等で急遽生徒が参加できなくなったりした場合に、キャンセル料を公費で負担することになりました。

費用とは別ですが、本校では公費で修学旅行に看護師が同行してくれています。様々な年齢の方が修学旅行に参加しますし、健康上配慮の必要な生徒もいます。そのため、毎年府教育庁に申請し、公費で負担してもらっています。多くの学校では、生徒（保護者）負担で看護師が同行しています。

Q4 「本校では入学すればすべて1年次生。全日制高校で3年在籍し、単位が少し足りなくて卒業できずに本校に転入学。それでも1年次生」→これについての改善点はないのでしょうか？

A4

本校は単位制のため、編入学（いったん他校をやめて本校に入学してくる生徒）・転入学（他校から転校してくる生徒）を含め入学した生徒はすべて1年次に所属します。前籍校での在籍年数や修得単位を引き継ぎ、卒業要件（高校に3年間に在籍や74単位以上修得等）を満たせば卒業できます。すでに高校に3年間に在籍し、単位が少し足りない生徒であれば、必要な単位のみ修得すれば卒業できます。本校に半年間の在籍で卒業した生徒もいます。

転入学後、全員が本校に4年（もしくは3年）在籍する必要があるということではありません。

Q5 外国籍生徒については、是非とも、学歴キャリアをつけていただきたいと思いますが、どのような困難さを教育提供者側が持たれているのかも知りたいです。

A5

日本語の習得、特に学習言語の問題が非常に大きいと感じています。日常生活では、言葉で大きな問題はないように見えても、学習（授業）で使われる言葉になるとわかっていないということがよくあります。また、そのことを質問できずにどんどん授業が分からなくなるということもあります。

本校では、学校設定科目で「日本語」を設けています。必要な生徒には授業として日本語を学習する機会があります。また、府教育庁が実施する教育サポーター制度を活用し、授業のフォロー等も行っています。

(通信制の課程への質問)

Q1 レポートの代筆問題への対策はどのようにされたのでしょうか

A1

通信制教育は「自学自習」が基本であるため、自分がレポートを作成することが大前提であることを伝え、まずは今回のことについて反省してもらいました。その上で、当該の生徒を登校させて、教員の監督のもと、すべてのレポートを自力で仕上げてもらいました。すでに締め切りは過ぎていましたが、特別措置として提出を認め、その成績は教科による判断としました。

Q2 資料2に関して、「運営委員会の強化」とは、どのような事に取り組んでおられるのでしょうか。

A2

これまでの運営委員会は、職員会議の前日にそれぞれの分掌の報告事項をすり合わせることが主でした。今年度は、それだけでなく准校長が課題と考えることを共有し、協議してもらうよう意識しています。紙上でご報告した「組織の課題」についての共有をはじめ、重要なことは「運営委員会の決定」という形で、職員会議におろそうとしています。

一方、会議の在り方についても検討が必要と考えています。本校では、運営委員会のあとに分掌会議があり、その直後に職員会議があるという流れになっています。これでは、運営委員会にかけられていないことが職員会議にかけられる、ということが起こります。スクーリング日程の関係で長年この形だったのですが、次年度にかけて改善したい、と考えていま

Q3 レポートですが、生徒の先生の交流はどのような工夫がなされているのでしょうか？

A3

レポートを添削する際、間違っている部分があれば、教科書のどこを読めばよいのか、ということを書き添えたり、参考になる資料を挟み込んで生徒に送っています。また、レポートに自分の考えや感想などを記載する場合、それに対する教員のコメントなども付けています。

例年、HR活動等の「特別活動」は対面で実施していましたが、コロナ禍のため今年度はほとんどを紙上実施としました。文化祭も体育祭も中止にしましたが、「特活号」という新たなレポートを作り、生徒から川柳や創作漢字などの作品を募集しました。審査の結果を特活号や冊子「桃谷通信」で発表したり、人通りの多い職員室前の廊下に作品を並べるなどして、通信制全体で共有できるよう工夫しました。また、防災や交通安全、人権教育についても「特活号」で実施しました。対面とは違うやりとり中で、これまでと違う生徒の一面を見ることができたという担任の声が多くありました。